

の後の学会発表の時、平野さんに話しかけてみるとちょっと機嫌が悪そうだった。無理もない、地元にも関係する面白い硬い虫の発見だったから悔しかったのだろう。申し訳ない気分になった。でもその直後に、亀澤さんからベニヨツボシの標本を貰ったとたん機嫌がころっと直り、満面の笑顔になった。ああなんだ標本欲しかっただけだったのかも、と思った。いつも人懐っこい笑顔を見てくれる人だった。

平野さんの偉大な業績はたくさんある。前述の本もそうだし、雑甲虫をメジャーにしたことも偉大な業績だと思う。それ以上に、何か記録する際に多くの情報をネット等で入手しそれを網羅的にわかりやすく解説するスタイル、それに尽きるように私は思う。彼の上の世代にも多くの偉大なアマチュア研究者がいて様々な業績が残されているが、いわゆる今風の研究スタイルこそが彼の偉大

な業績だったのではないかと思う。
ご冥福をお祈り申し上げます。



平野さんはいつもみんなに頼られていた（2011年の大会の同定会にて、中央が平野さん）

地域ファウナ分科会 —平野幸彦氏を偲んで—

藤本博文

〒760-0005 高松市宮脇町1-17-4

平野幸彦さんが亡くなられた。最後にお会いしたのは2019年1月20日、神奈川県立生命の星・地球博物館で行われた神奈川昆虫談話会の例会（神奈川県昆虫誌2018出版記念シンポジウム）だった。平野さんは闘病中だったが、奇跡的に病状が良くなられたとのことで車椅子で出席された。元気そうに手を振り登場されたが、そのお顔はすっかり瘦せてしまっていた。お会いできて嬉しいと思う一方で「これが最後になるかもしれない」という不安も頭をよぎった。その日以来不謹慎ではあるが、遠からず来るであろう、日に向けての心の準備も始めていた。それでも計報に接した際の衝撃は想像以上で、3ヶ月が経った今も決して小さくない穴が心に開いたままだ。

平野さんの存在を初めて知ったのは1990年代、大学生の時である。神奈川県産甲虫の記録を逐一整理、更新されている姿に、尊敬と憧れの念を抱いていた。月刊むしの「県別に甲虫は何種いるか（平野, 1987）」や「地域別に甲虫は何種いるか（平野, 1995）」、あるいは神奈川虫報の「神奈川県の甲虫は何種生息しているか（平野, 1992）」等の記事を

コピーしてはバインダーに綴じ、擦り切れるくらい何度も読み返したものであった。当時の私にとって、平野さんは雲上人の一人だった。

思えば、平野さんと初めてお会いしたのも小田原の神奈川県立博物館だった。1997年11月に開催された日本鞘翅学会（本会の前身のひとつ）の総会である。当時の私は大学院生活に行き詰まり、自分が何をしたいのかを見失いかけていたが「地域に生物種は何種いるのか」というテーマには興味があり、福岡市の離島、能古島の甲虫相調査を続けていた。この時は「地域ファウナ分科会」というものがあり、私はそれに参加した。

会は、まず平野さんが神奈川県の甲虫相解明の現状を紹介し、その後、参加者が各地のファウナ調査の現状を自由に話す流れで行われた。私も、熱にうなされた様に手を挙げ、たどたどしくも能古島の調査の話をしたはずなのだが、極度に緊張していたため内容は覚えていない。おそらく支離滅裂なものだったと想像する。しかしそんな私を、平野さんをはじめ参加されていた方々は、にこやかに優しく受け入れてくれた。何にもなれずに消

えていきそうなもやもやした気持ちをずっと抱えていたので、とても嬉しく感じられた。この経験が今でも地元の甲虫相の調査を細々と続けている大きな原動力となっている。

平野さんとはその後も、鞘翅学会、甲虫学会の総会の度にお会いした。いつも笑顔で「面白い虫はいましたか?」と話しかけてくださるのが常だった。お世話になったことも数知れない。また、まだ中高生と思われる虫屋の言葉遣いを、穏やかながらも毅然と、きちんと指導される姿を目についたこともあった。教育者としても素晴らしい方で、私も見習いたいと思った。

こうして振り返ると、虫に関する知識はもちろんのこと、人間としての懐の深さも、私にはとうてい及ばない人物だったと改めて気づかされる。追いつけないもどかしさを感じるばかりだが、残された者としては教えを胸に、歩みを止めることなく、自分にできることを少しづつ形にしていくしかないと思っている。

追記 この小文を記すにあたり、当時作成したバインダーを見直していたところ、「地域ファウナ分科会」のレジュメが出てきた。3ページあるレジュメの1ページ目をここにあげておく。当時の筆者による手書きの加筆が見苦しいが、ご容赦願いたい。科の名称、および所属する上科に隔世の感がある。

参考文献

- 平野幸彦, 1987. 県別に甲虫は何種いるか. 月刊むし, (201): 28-31.
 平野幸彦, 1992. 神奈川県の甲虫は何種生息しているか. 神奈川虫報, (100): 41-57.
 平野幸彦, 1995. 地域別に甲虫は何種いるか. 月刊むし, (296): 23-27.

1997年11月現在(平野幸彦作成)				
科名	種類数	構成率	備考	
(ナガヒラタムシ上科)	(3)			
ナガヒラタムシ科 Cupedidae	2			
ナガヒラタムシ科 Micromalthidae	1			
(オナムシ上科)	(442)	(11.6)		
セスジムシ科 Rhysodidae	5			
ヒグマオサムシ科 Paussidae	1			
オオムシ科 Omophronidae	1			
ハムミコムシ科 Cicindelidae	10			
オサムシ科 Carabidae	376	9.8	2位	10.1
ホソクビムシムシ科 Brachinidae	4			
コガシラムシムシ科 Halophilidae	5			
コガシラムシ科 Noteridae	1			
ゾンゴロムシ科 Dryiscidae	32			
ミズヌムシ科 Gymnidae	7			
(ブツミズヌムシ上科)	(1)			
ブツミズヌムシ科 Tornidolidae	1			
(ガルバムシ上科)	(45)	(1.2)		
ガルバムシ科 Hydrocenidae	3			● 5.2% 60 ● 甲約200
マルドムシ科 Geocoridae	1			
セスジガルバムシ科 Helophoridae	1			
ガルバムシ科 Hydrophilidae	40	1.0		1.1% 150
(エントムシ上科)	(62)	(1.6)		
エントムシ科 Sytetaidae	1			
ニンマリムシ科 Histeridae	61			
(ホカクシムシ上科)	(693)	(18.0)		
ムクダムシコムシ科 Philidae	12			
タケモムシ科 Leptidae	37			
レンドトキムシアン科 Coloididae	3			
セビシムシ科 Catepidae	21			
フヤシムシ科 Agrypnidae	2			
シデムシ科 Staphylinidae	16			
ハムムシ科 Anthicidae	488			
アリワカムシ科 Paedophilidae	76	2.0	1位	12.3
ニセカムシ科 Dasyderidae	1		++	
コケムシ科 Sycmaenidae	6		+	
オオキノコムシ科 Scarabidae	33			
(マダラムシ上科)	(20)			
マダラムシ科 Clambidae	4			
マルハナソミダリ科 Eucinetidae	1			
マルハナソミダリ科 Helodidae	14			
ニセマハナソミダリ科 Deelinidae	1			
(ガルバムシムシ上科)	(1)			
ガルバムシ科 Geotrupidae	1			
(コガネムシ上科)	(156)	(4.1)		
タケダムシ科 Lucanidae	15			
コブシムシガヌキ科 Trogidae	4			
センチコヌキ科 Geotrupidae	4			
ニガネムシ科 Scarabaeidae	133	3.5		

山海山 1540m
福岡 新潟 兵庫 福島 関東 青森
● 放置省立ケイヒ
● 分類不明ケイヒ
● 内省立ケイヒ
● 未定ケイヒ
● 3500-3700m

地域ファウナ分科会レジュメ

お知らせ・会務報告

大阪例会・名古屋例会・東京例会に関するお知らせ

日本甲虫学会では、毎年12月に大阪例会と東京例会を開催しています。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の懼れを考慮し、東京例会を中止とさせていただきました。ご了承くださいようお願いします。大阪例会につきましては、12月12日(土)に「大阪例会・オンライン研究発表会の視聴」との変則的な形で開催することになっています(注、11月下旬時点での予定です。今号が会員の皆様に配達される時点では、事後報告扱いになります)。

なお、例年3月に開催している名古屋例会と東京例会につきましては、開催の有無、日程、場所等、現時点では全て未定です。さらに、開催する場合でも、人数を制限する、体調不良の方の参加をお断りする、または懇親会を行わない等の措置をとる場合がございます。詳細につきましては、決まり次第、学会websiteにて告知します。会員の皆様におかれましては、各自でご確認いただけますよう、お願ひいたします。

(大阪例会・名古屋例会・東京例会運営幹事)